コラム ～日本の健康・世界の健康～

東ティモールと人びとの健康

名古屋市立大学大学院看護学研究科　国際保健看護学　教授　樋口　倫代

縁があって2001年からしばしば滞在している東ティモール（正式名称：東ティモール民主共和国）のことを今回はご紹介しようと思います。

地図で東京から真南にたどるとパプア島の真ん中あたりに行きますが、そこから少し西側にあるティモール島の東半分と飛び地のオイクシ、2つの離島からなる面積約15,000㎢（愛知県の約3倍）の小さい国です。インドネシアに囲まれていて、東南アジアに位置しますが、オーストラリアやパプア島にも近く、メラネシア系の人も多いです。

人口は約130万人（愛知県の1/6より少し多い）。しかし、山国であり平地が限られており、首都と2番めの町に全人口の1/4が暮らしているため、都市部では人口は密集しています。いちばん高いマイラウ山は2,986m。その麓や周辺の村々は標高1,000m以上のところにあり、ほぼ赤道直下でも涼しい地域も多いです。そのような山間部ではコーヒー栽培が盛んで、日本にも輸入されています。

東ティモールは2002年の独立回復から今年で20年の「アジアでいちばん新しい国」です。独立回復までには苦難の歴史があり、とても一言では語れませんが、ごく簡単にまとめると、16世紀から1974年まではポルトガルの植民地（うち太平洋戦争中の3年間は日本が軍事占領）、ポルトガルの植民地放棄後、1975年11月28日に独立を宣言したものの、10日後に隣国インドネシアが軍事侵攻し、その後インドネシアの実効支配が続きました。この間に多くの人が亡くなったとされています。1999年8月30日に住民投票が実施され、約80％という圧倒的多数が独立を支持しましたが、インドネシア軍と独立派民兵による破壊と暴行が行われました。住民は山間部や西ティモールに逃げ、インフラは破壊され、行政も機能しなくなりました。国連が多国籍軍を派遣し、ついで暫定行政機構を設立、約2年半の国連統治を経て2002年5月20日に主権を回復しました。

当初は「世界最貧国の1つ」でした。しかし、石油と天然ガスに依存する経済ではあるものの現在は国連の定義で「中所得国」になっています。社会の豊かさを示すのによく使われる他の指標でみても、平均寿命は61歳（2002年）から70歳（2020年）、成人識字率は38％（2001年）から68％（2018年）、高校就学率も34％（2008年）から63％（2018年）と飛躍的にのびています。生活環境もよくなってきており、例えば「改善されたトイレ」（人間が排泄物と接触しない設計のトイレ）を使用している割合は37％から57％、「改善された水源」（外部汚染から保護される水源）を飲み水としている割合は50％から85％に上がりました（それぞれ2002年と2020年の比較）。

この20年間で人びとの健康がよくなっていることを肌身で感じています。またそれを指標で確認することができます。大きな変化を感じているのはマラリアと子どもの栄養状態です。最初に滞在した頃は、マラリアに感染するのはまったく珍しいことではなく、私もご多分にもれず罹りました。しかし、2005年に年間6万人弱のマラリア症例が報告されているのをピークに減少し、2018年以降はほとんど発症報告がありません。5歳未満児の低体重の割合は周辺国に比べればまだ高く32％（2020年）ではありますが（インドネシアでは2018年の統計で18％）、そう言えばいつ頃からか、髪の毛の色の薄い子どもを見かけることが少なくなってきました。SDGsの数値目標の1つである「5歳未満で亡くなる子どもの数」は出生千あたり97（2002年）から42（2020年）に、「妊娠と出産に関連して亡くなる女性の数」は出生10万あたり668（2002年）から142（2017年）と減少しています。もちろん日本のそれぞれ3、5に比べればはるかに高いとは言え、大きな改善と言えるでしょう。

これらは、社会・経済や生活環境がよくなってきたこととともに、地域保健活動による成果も大きいと考えられます。世界には予防接種で回避できる疾患は多くあり、子どもの予防接種率を上げることは世界的な目標です。特に、はしかは重症になったり死亡したりする割合が高いことなどからその予防接種率は重要な小児保健指標ですが、これは56％（2002年）から79％（2021年）と上がりました。また、妊産婦死亡を減らすために、4回以上の妊婦健診を受ける率や医療従事者による出産介助率を上げることが目標とされますが、これもそれぞれ、30％から77％、18％から57％と改善しています（それぞれ2003年と2016年の比較）。

（ここまでの指標は世界銀行のデータバンクから引用しています。）

そのような保健医療を支える人材は、独立回復時には極めて数が少なかったのですが、今では医師、看護師、助産師の養成機関も増え、公衆衛生の専門家も育成されています。また、村々ではファミリー・ヘルス・プロモーターという一般住民の保健ボランティアも地域の人びとの健康に重要な役割を果たしています。東ティモールの保健省は「健康な東ティモールに健康な東ティモール人」というスローガンをかかげていて、これは国中のいろいろなところで目することができます。

最後に新型コロナウィルス感染の状況について少し付け足すと、2022年10月9日現在、累計感染確認数は23,268、累計死亡数は138です。人口あたりにしても周辺国に比べて低い数に抑えられており、新しい国としての努力がうかがわれます。